



「沈黙」のモデル、キアラ神父
江戸の殉教者②

江戸のキリシタン屋敷

谷 真介 著



「江戸のキリシタン屋敷」がよくわかる 守る信仰、殉教にどんな意味があるのだろうと改めて自問する。信仰の自由が当たり前の現代では、理屈ではなく、その生き方を理解することは難

遠藤周作の「沈黙」を読まれた方も多いと思う。「神の沈黙」、現代にも言えることだが、戦争、テロをはじめとする人間の悪に対して、神はなぜ沈黙なのか。悪は人間の自由の業ではあるが、神はなぜそれを許されるのだろうか。

この事件はヨーロッパに伝わり、ことにイエズス会に大きな衝撃を与えた。

「お前たちは神が全能だと言うが、神から見捨てられている。お前たちが苦しめられても神は黙っているではないか」と。

しいのではないか。私がその答えとして思うのは、イエズス会の創立者イグナチオ・ロヨラの言葉である。ロヨラは著書「霊操」の中に次のように書き残している。

これが自由であれば、殉教もすべてが無意味であり、神はそもそも存在しないということにならないだろうか。

この事件はヨーロッパに伝わり、ことにイエズス会に大きな衝撃を与えた。

結局、キアラらは拷問にかけられ、穴吊りに数日間耐えたが、ついに転んでしまふ。そして棄教者として江戸キリシタン屋敷に収容される。岡本三右衛門という名前と妻も与えられた。

「人間が造られたのは、主なる神を賛美し、敬い、仕えるためである。こうすることによって自分の靈魂を救うためである」と。

「沈黙」の主人公、ロドリゴのモデルと言われるキアラ神父。1633年、イ

彼を転ばせるため、転んだ人。しかし日本上陸後、すぐに捕まり、江戸小伝馬町の牢に入れられる。幕府は

彼は40年間、屋敷から出ることもなく、1685年に病死した。何とも残酷な話である。

神の子、イエス・キリストは自らはりつけにされる十字架を背負い、ゴルゴダの丘へと苦しみの歩みを続け、殉教する。神は彼を右の座におかれた。

「沈黙」の主人公、ロドリゴのモデルと言われるキアラ神父。1633年、イ

彼を転ばせるため、転んだ人。しかし日本上陸後、すぐに捕まり、江戸小伝馬町の牢に入れられる。幕府は

彼は40年間、屋敷から出ることもなく、1685年に病死した。何とも残酷な話である。

苦しみにも意味があるのだと、自分の病後の苦しみとオーバードラップさせる。結局、ロヨラの「人間が造られたのは神を賛美し、敬い仕えるため」にたどりつ



今回、屋敷跡を訪ねたが、閑静な住宅地に石碑と東京都指定旧跡の看板があった。その一角に「シドッチ記念館」を見つけた。これについて

命を捨てるまで



穴吊りにされたキアラ神父